

2019/7

## リモートデスクトップ用 Matrix API

有限会社リビッグ  
<https://ribig.co.jp/matrix>

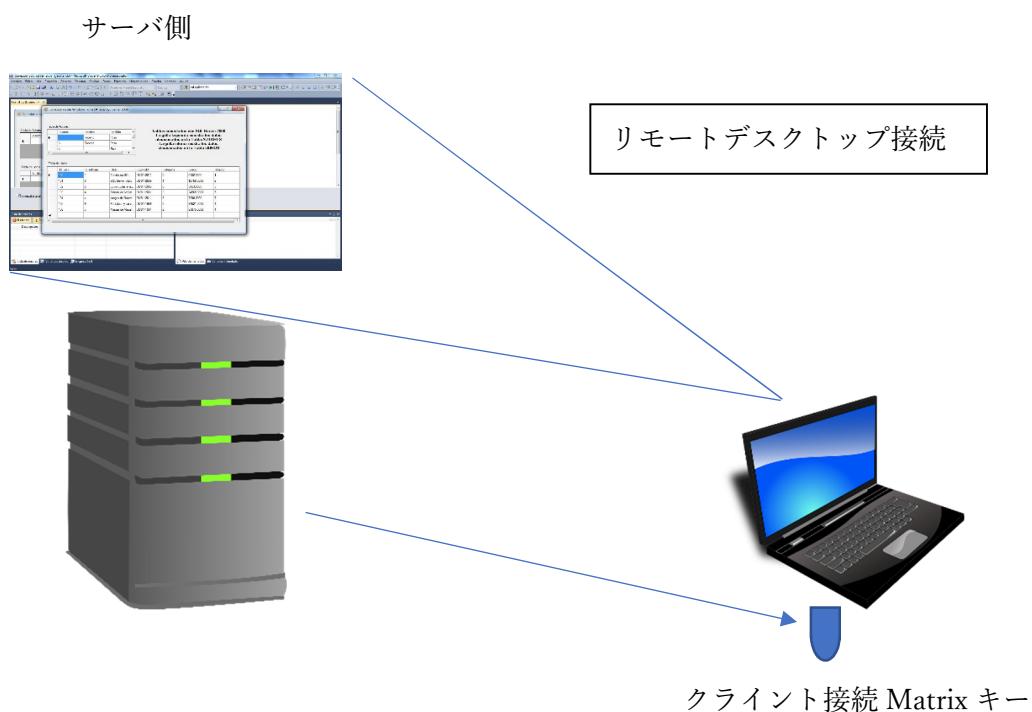
## 内容

1. 概要.....	3
2. 利用方法 .....	4
2.1 サーバ側.....	4
2.2 クライアント側 .....	4
2.2.1 サーバ側が Window 10/8, Windows Server 2012/2016/2019 .....	4
2.2.2 サーバ側が Window 7, Windows Server 2008 の場合 .....	6
2.2.3 注意事項.....	7

## 1. 概要

リモートデスクトップのサーバ側で実行するプログラムがクライアント側接続の Matrix キーを操作するための API です。サーバ側のプログラムは、クライアント側接続の Matrix キーをローカル接続キーのように操作できます。

Matrix API 互換のため Matrix API を利用しているプログラムは、DLL 差替、LIB 変更/再コンパイルでクライアント側キーにアクセスするようになります。



## 2. 利用方法

### 2.1 サーバ側

サーバ側プログラムは、付属 API を呼び出すようにします。Matrix DLL API をロードしているプログラムは Matrix32RDT.DLL をロードするようにします。Matrix スタティックライブラリをリンクしているプログラムは付属 matrix32rdt\_st\*/matrix32rdt\_md\* とリンク,再コンパイルしてください。

クライアント側の Matrix キーの抜き差しを検出するには MxRDTEvent.exe を matrix32rdt.DLL と同じフォルダ, LIB をリンクした EXE と同じフォルダに置いてください。MxRDTEvent.exe が抜き差しイベントをウィンドウメッセージとしてブロードキャストします。

付属の C#, C サンプルをご参照ください。

### 2.2 クライアント側

マイクロソフトのリモートデスクトップクライアント(mtsc.exe)用のプラグインを登録します。これによりリモートデスクトップクライアントプログラムが起動するごとにプラグインが読み込まれるようになります。サーバ側の OS によって異なるプラグイン登録が必要です。

#### 2.2.1 サーバ側が Window 10/8, Windows Server 2012/2016/2019

RDTPlugin フォルダをすべて固定ディスクの任意のフォルダにコピー後、コピー先のフォルダで auto-setup.exe を管理者として実行します。

1. RDTPlugin フォルダの内容を C:\RDTPlugin にコピー
2. C:\RDTPlugin の auto-setup.exe を管理者として実行

### Auto-Setup



64ビット版 MatrixAPI plugin for Remote Desktop の登録プログラムを起動します

はい(Y)

いいえ(N)

3. [はい]

4. 登録ウィンドウ表示

### MatrixAPI for RDT プラグイン登録

プログラムが管理者として実行されました。RDPプラグインをコンピュータに登録します。ユーザ単位で登録するにはユーザ権限で実行してください

登録

解除

5. [登録]ボタンをクリック。登録されると、解除ボタンが有効化

### MatrixAPI for RDT プラグイン登録

プログラムが管理者として実行されました。RDPプラグインをコンピュータに登録します。ユーザ単位で登録するにはユーザ権限で実行してください

登録

解除

以上でプラグインのクラスが登録されます。この時点では、この管理者ユーザはプラグインを利用できますが、他のユーザにはまだ有効化されていません。管理者がプラグインをこのコンピュータで利用することを許可しただけの状態です。各ユーザはプラグインの利用登録をしなければなりません。

プラグインを利用したいユーザはログイン後、C:\RDTPlugin\auto-setup.exe を実行します。

### Auto-Setup

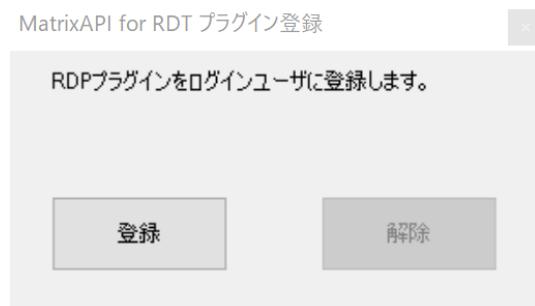


64ビット版 MatrixAPI plugin for Remote Desktop の登録プログラムを起動します

はい(Y)

いいえ(N)

1. [登録]ボタンをクリック。登録されると、解除ボタンが有効化



一度有効化すると、以降プラグインがリモートデスクトップクライアントに読み込まれるようになります。

### 2.2.2 サーバ側が Window 7, Windows Server 2008 の場合

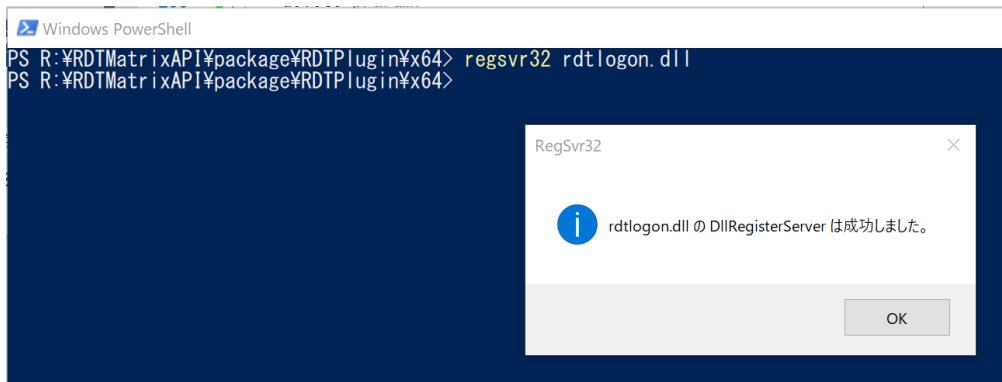
クライアント側 OS (32 ビットか 64 ビット) と一致するプラグインを登録します。管理者による登録は不要です。プラグインを利用する各ユーザが登録処理を行ってください。

32 ビット ¥RDTPlugin¥x86¥RDTLogon.DLL  
64 ビット ¥RDTPlugin¥x64¥RDTLogon.DLL

#### 登録

コンソールウィンドウ(DOS プロンプト)を開いて以下コマンドを実行します。

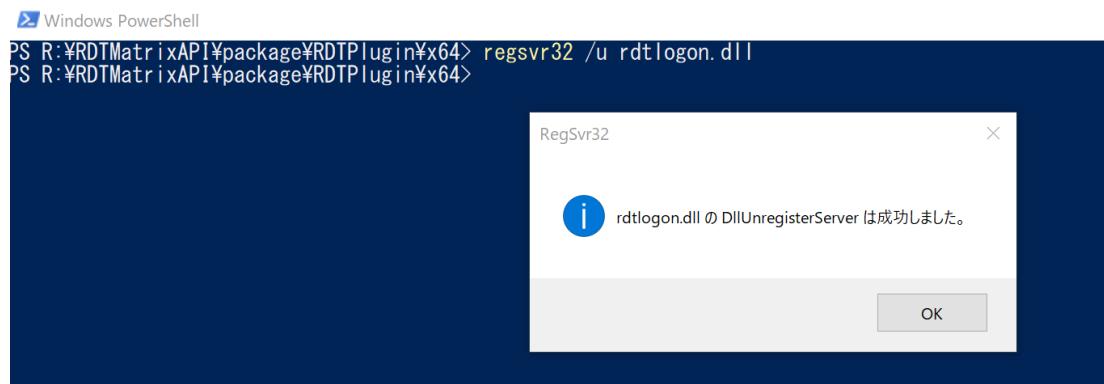
```
>regsvr32 RDTLogon.dll
```



## 解除

コンソールウィンドウ(DOS プロンプト)を開いて以下コマンドを実行します。

```
>regsvr32 /u RDTLogon.DLL
```



### 2.2.3 注意事項

プラグインはファイルの場所を登録するだけで、インストールしているわけではありません。RDTPlugin フォルダをコピーした固定ディスクのフォルダは削除したり、移動したりしないようにしてください。登録したファイルが見つからないとプラグインは読み込まれません。